

特別活動授業構想

指導者 広島県立西条特別支援学校
教諭 道岡 尚子

(はじめに)

本単元は、道岡尚子（令和6年）「肢体不自由のある生徒の自己理解能力を高めるキャリア教育の実践―「自分発見プログラム」の開発を通して―」https://www.hiroshima-c.ed.jp/pdf/research/chouken/R06_zenki/10-1_career.pdfにおいて実践したものである。別添資料「教師が意図した対話の実際（一部）」https://www.hiroshima-c.ed.jp/pdf/research/chouken/R06_zenki/10-2_career_betten.pdfについても、本授業構想と合わせて参照されたい。

1 単元名 自分のことを見つめよう～「自分発見プログラム」～

2 単元について

○ 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領 特別活動 ホームルーム活動の2内容「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の「ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成」に即して設定した。特別活動の目標、内容及び指導計画の作成と内容の取扱いについては、各特別支援学校を通じて、高等学校に準ずることとしている。しかし、身体障害者である生徒に特別活動の内容を指導するため、障害の状態・経験・生活年齢・学習状況を考慮した内容とする。この単元は「自分発見プログラム」の一部として位置付けられており、「自分発見プログラム」のはじめ、中、終わりに実施する。「自分発見プログラム」とは、中村（2011）の障害理解の視点を用いた教育活動における三つの場面設定（自己を見つめる、他者と関わる、障害の知見を得る）、生徒が自己への気付きを蓄積する「自分発見シート」の活用、及び自己理解を促す教師の意図的な対話や言葉掛けで構成されるものである。よって、本単元を実施する期間には、特別活動以外に三つの場面設定による教育活動が複数回設定されており、本単元は、そこでの気付きを繋げて自己理解を深める役割を果たしている。

第1時は、自己理解について考えるきっかけとし、「自分発見プログラム」で行うことの理解や見通しをもつことをねらいとする。まず、自分についてどの程度理解できているのかを可視化するため、自分の強みや弱みを記入する「自分イメージマップ」を作成する。さらに、作成した「自分イメージマップ」を共有することで、他者との比較や対話による気付きを増やしていく。教師も「自分イメージマップ」を作成して共有に加わることで、生徒に気付かせたい自己理解段階表の三つの項目を意識したものを作成する。共有の場面では、自己理解能力が肯定的な自己理解に基づいて高まることを踏まえて、「自分イメージマップ」に表出した否定的側面を、リフレーミング及び苦手なこと・短所の対応策を考えることで、肯定的に捉え直すことができるよう、意図的な対話を行う。

第2時は、「自分発見プログラム」前半の教育活動における気付きを振り返ることで自己理解を深めたり、「自分発見プログラム」後半への見通しをもったりすることをねらいとする。まず、前半に蓄積している「自分発見シート」を基に振り返りを発表させることで、別々に実施されていた教育活動の共通点や相違点に気付かせる。さらに、気付きが促されるよう教師は三つの場面を意識した意図的な対話を行ったり、他者の発表を聞く際は、他者の考えを想像さ

せることにより他者と自分の考えを比較できるようにしたりする。次に「自分イメージマップ」（２回目）を作成する。直前に行った振り返りの発表での気づきを言語化できるよう、必要に応じて対話を行う。その後、１回目と２回目を比較することで自己理解の深まりに気付かせるとともに、「自分発見プログラム」後半への見通しをもたせる。

第３時は、「自分発見プログラム」を通して自己理解が深まるための生活上の課題への気づきについて理解し、それらが「自分発見プログラム」後の将来の生き方を考えるきっかけとなるようにすることをねらいとする。まず、第２時以降に蓄積している「自分発見シート」を基に振り返りを発表させる。次に「自分イメージマップ」（３回目）を作成する。直前に行った振り返りの発表での気づきを言語化できるよう、必要に応じて対話を行う。その後、１回目、２回目及び３回目を比較することで自己理解の深まりに気付かせると共に、現時点での自己の生活上の課題を見付けさせる。最後に、見付けた課題にどのように向き合うかや解決策について話合う場面を設け、「自分発見プログラム」自体は終了するが、今後の人生においても自分を発見し続けることの大切さに気付かせる。

この単元を通して、各教科等の特質に応じたキャリア教育の取組を特別活動で繋ぎ、生徒の自己理解を深めることが期待できる。このことは、キャリア教育充実の要である特別活動の内容として意義がある。

○ 指導観

この単元で使用する「自分発見シート」「自分イメージマップ」は、書字に困難さがある生徒の実態を考え、PC入力ができるものとする。「自分発見シート」はGoogleスライドに、三つの場面設定による教育活動毎の自己への気づきを蓄積していくものであるが、その際プログラム内の写真を貼り付けておくことで、気づきを思い出せるよう工夫したい。また、「自分発見シート」は共有ドライブ上にアップロードしておき、教科担任や担任が生徒理解を深めたり、適時意図的な対話を行ったりできるようにしておく。特別活動の授業の中で作成する「自分イメージマップ」はJamboardを使用する。これは現時点で認識している「自分」をキーワードや単語で付箋入力でき、書字の負担軽減や時間短縮を図ることができる。さらに自分や他者の考えを可視化したり、付箋を移動したりできるため、自分の思考を整理し自己理解へつなげることをねらうものである。

また、他者の考えを想像させたり、自分の行動の理由を考えさせたりする等、生徒の自己内対話が充実するような問いかけを行いたい。その際、肢体不自由のある生徒は身体の動きに困難があることから、体験不足のまま言葉や知識を習得していることが少なくないことを考慮して、生徒が自分に対して感じたことや気付いたことなどを言語化、明確化していくことを意識したい。

3 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
自己の生活上の課題の改善に向けて主体的に取り組むことの意義を理解できる。	自己への気づきを深め、自己の成長に関する課題を見出すことができる。	他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとすることができる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
障害を含めて自己理解し、自己の生活上の課題の改善に向けてなるべく少ない支援で日常生活に取り組むことの意義を理解している。	「自分イメージマップ」を作成しながら、他者との関わりや教師の意図的な対話や言葉掛けにより、自己への気づきを深め、自己の成長に関する課題を見出している。	他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、強みを生かしたり、弱みを受け入れ適切な支援を求めたりといった具体的な解決策を話し合い主体的に取り組もうとしている。

5 指導計画（全3時間）

	指導計画	時数	指導内容（学習内容）	評価の観点		
				知	思	主
第1時	自分のことを見つめよう① 肯定的な自己理解	1	「自分イメージマップ」 （1回目） 自己のリフレーミング 自分発見プログラムについて	○	○	
第2時	自分のことを見つめよう② 自他理解	1	「自分発見シート」発表 他者理解を通じた自己理解 「自分イメージマップ」 （2回目）	○	○	○
第3時	自分のことを見つめよう③ 話し合いを基にした自己理解	1	「自分発見シート」発表 「自分イメージマップ」 （3回目） 自己の生活上の課題に対する話し合い		○	○

6 授業案

6月17日（月） 自分のことを見つめよう① 肯定的な自己理解 本時の目標：「自分発見プログラム」の目標達成への見通しや、自分を知ることへの意欲をもつことができる。	
学習活動	指導上の留意点
1 あいさつ	
2 学習の目標と流れ	
3 自分イメージマップ作成 ・現時点での自分に対する認識を「自分イメージマップ」に記入する。 （個人活動） ・対話しながら、気付いた新しい自分も「自分イメージマップ」に記入する。 （集団活動）	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介のつもりで、思い付く全ての自分を記入するよう伝える。 教師も一緒に、「自分イメージマップ」を作成し、それぞれの生徒に気付かせたい項目（強み自己理解、弱み自己理解、弱み自己理解（障害理解））を入れておく。 事前アンケートを基に、意図的な対話や言葉掛けを行う。
4 発表 ・自分のPCを使って発表する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>意図的な対話（例） 「最初自分の全てを書くよう言ったのに、先生や友だちと対話していたらどんどん増えていったのはどうして？」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 自分のことは実はよく分かっていないこと、日々変化することに気付かせる。
5 リフレーミングや受容 ・「自分イメージマップ」の否定的事項を肯定的に捉える。 ・短所や苦手なことの対応策を考えることで受容する。	<ul style="list-style-type: none"> 教師が自分のことを例を出し、リフレーミングや苦手なことへの対応策を紹介する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>意図的な対話（例） 「先生、よく物を忘れるんだけどどうしたらいいかな？」「〇〇さんだったら、どうする？」</p> </div>
6 自分発見プログラムの説明 ・「自分発見プログラム」の目的や内容の説明を聞く。 ・「自分発見シート」について操作しながら理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 谷川俊太郎の詩「自分をはぐくむ」の一節を紹介し、「自分を発見し続けたら、成長することができるのか」という問いを投げかける。 実際にPCを操作してクラスルームのGoogleスライドの使い方を体験する。
7 ふりかえり	
8 あいさつ	

7月2日（火） 自分のことを見つめよう② 自他理解

本時の目標：「自分発見プログラム」前半を振り返り、自分について多様な見方で捉え直すことができる。

学習活動	指導上の留意点
<p>1 あいさつ</p> <p>2 学習の目標と流れ</p> <p>3 「自分発見プログラム」前半の振り返りの発表 ・「自分発見シート」や「自分イメージマップ」を基に発見した自分について発表する。</p> <p>・発表を聞く際は、その場面での他者の気持ちや行動について考え、自分と比較する。</p> <p>4 「自分イメージマップ」作成 ・活動3を踏まえて、現時点での自分に対する認識を「自分イメージマップ」に表す。（個人活動）</p> <p>・互いに見せ合って、気づきを話し合う。（集団活動）</p> <p>5 ふりかえり</p> <p>6 あいさつ</p>	<p>意図的な対話（例） 自立活動→「車椅子から立って座ることができるようになってどんな気持ち？」「自分の障害のことが人に説明できると何かいいことがあるのかな？」 校外学習→「担任のコメントを見ると、できることが沢山見付かったんだね。なぜ、できたと思う？」</p> <p>・他者の考えを想像させたり、行動の理由を考えさせたりすることで、自己内対話を充実させる。</p> <p>・前回の「自分イメージマップ」と比較して、成長したことや、否定的側面であっても、新しい自分を発見できたことを教師が評価する。</p> <p>・1回目と比較しやすいよう、色を変えたり付箋を移動したりして、思考を整理させる。</p>

7月12日（木） 自分のことを見つめよう③ 話合いを基にした自己理解
 本時の目標：自分の生活上の課題に気づき、解決策を話し合うことができる。

学習活動	指導上の留意点
1 あいさつ 2 学習の目標と流れ 3 「自分発見プログラム」後半の振り返りの発表 ・「自分発見シート」を基に発見した自分について発表する。 4 「自分イメージマップ」作成 5 自分の課題を確認し解決策を話し合う。 6 ふりかえり ・今日の授業の目標への振り返りと、自分発見プログラム全体を終えての感想を発表する。 7 あいさつ	<div data-bbox="826 389 1382 667" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>意図的な対話（例） 「自分発見シートの文末が「～しないといけない自分に気付いた」に変わってきているのはどうして？」 「～しないままだったら、どんな自分になるの？」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分発見シート」を参考にしながら現時点の自分について付箋に入力させる。今の自分に合わない付箋は削除してもよいこととする。 <div data-bbox="826 869 1382 1146" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>意図的な対話（例） 「たくさんの自分を発見したけど、〇〇さんはどんな自分になりたいの？」 「そのために、この中の自分をどうしたらよさそう？」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教師は、生徒の思考を整理するために、必要に応じて発言をJamboardに入力して可視化する。 ・谷川俊太郎の詩「自分をはぐくむ」を全文紹介し、今後も新しい自分を発見し続けることの大切さに気付かせる。